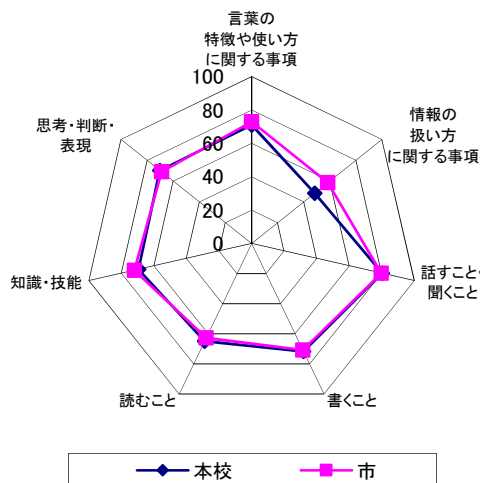


宇都宮市立東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.1	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	48.5	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	80.3	79.8	75.9
	書くこと	71.7	70.7	71.7
	読むこと	64.9	62.8	62.5
観点別	知識・技能	69.5	72.0	74.4
	思考・判断・表現	70.4	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

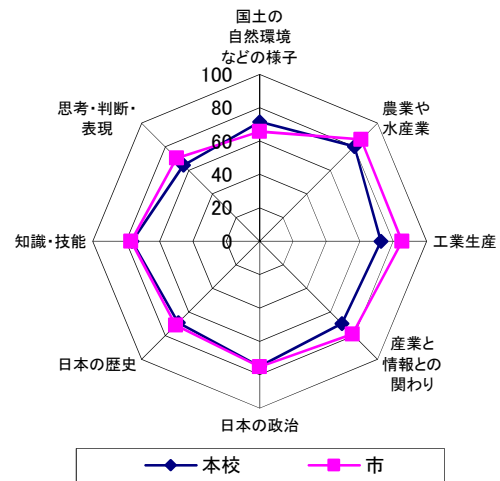
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より1.9ポイント下回っている。</p> <p>○第6学年に配当されている漢字を正しく読んだり、三字の熟語の構成を理解したりする設問については80%以上の児童ができていた。</p> <p>●第5学年に配当されている漢字を正しく書いたり、謙譲語について理解し、正しく使ったりする設問については、正答率が42%から63%と低く課題が残った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きについては、国語科はもちろん、他教科でも子供たちの意識が常に向けられるよう、教師が徹底して指導していく。 敬語の使い方については、毎日の生活の中で、TPOをわきまえた話し方の指導を行ったり、家庭学習プリント等で繰り返し取り上げたりして、敬語の使い方を身に付け、自然と使えるようにしていく。
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より10ポイント下回っている。</p> <p>○3つの情報の関係性を理解し、目的に応じて簡潔に文章にまとめることを40%の児童ができていた。</p> <p>●3つの情報の関係性を理解することに不十分なまま文章を書いた児童が27%、さらに無回答の児童も30%と長文で構成された文書を大事なところに注目して読み解くことに課題が残った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国語科を中心に複数ある情報の中から、必要な情報を読み取るだけでなく、それらを組み合わせる文章を作る活動を意図的に組んでいき、文章を作る活動に慣れていくようにする。また、社会科の調べ学習や算数の文章題を解く活動でも情報の読み取りの部分をていねいに指導していく。
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、80.3%と市の平均とほぼ同等となった。</p> <p>○話の内容を明確にするための話し手の工夫をとらえる設問では、正答率が100%と全ての児童ができていた。計画的に話し合い、考えをまとめるための司会者の工夫について考える設問でも市の平均よりも2.1ポイント上回った。</p> <p>●互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合い考えをまとめて記述する設問では、内容があいまいだったり、無回答の児童が45%と課題が残った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝の1分間スピーチで、ただ話すだけでなく、話の流れを意識して話せるようにしていく。また、聞く側もただ、相手の話を聞くだけでなく、時には質問したりスピーチ後話の内容を聞き返したり、毎日の話す聞くの場面で指導を徹底していく。また、国語科に限らず他教科においても話し方聞き方について繰り返し確認していく。
書くこと	<p>平均正答率は、71.7%と市の平均よりも1ポイント上回った。</p> <p>○報告する文章を書くために、考えを明確に伝えるための記述の工夫をとらえる設問では、90%の児童ができていた。また、2段構成文を書いたり、自分の意見とその理由を書いたり、賛成しない意見への反論を書いたりする設問も市の平均と同等か上回った。</p> <p>●給食の食べ残しを減らすための意見を書く設問では、指定された形式で書けなかった児童が33%おり、課題が残った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、自分の立場や意見を明らかにして書く活動を意図的にを行い、その際には段落構成や字数、理由を挙げて書くことなど観点を決め、書く力を育成していきたい。 授業の中で説明文やグラフ等の資料を意図的に取り上げ、読み取ったことを文章で表す経験を重ね、適切に表現できるよう指導していく。
読むこと	<p>平均正答率は、64.9%と市の平均よりも2.1ポイント上回った。</p> <p>○説明文全体の構成をとらえる設問では、90%以上の児童が理解していた。</p> <p>●物語文の登場人物の様子を描写をもとにとらえること、物語の全体像を具体的に想像することに課題が残った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 読み取り指導を行う中で、物語の場面の移り変わりや、登場人物の心情の変化をとらえる指導を継続して行う。 物語文では登場人物の様子を描写をもとにとらえる、説明文では文章の内容を的確に読み取ることの指導を継続していく。

宇都宮市立東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	71.5	65.7	67.0
	農業や水産業	80.3	86.1	77.5
	工業生産	72.7	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	69.7	78.6	69.6
	日本の政治	75.0	75.2	65.8
観点別	日本の歴史	68.9	71.1	69.1
	知識・技能	76.5	77.0	72.8
	思考・判断・表現	64.4	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

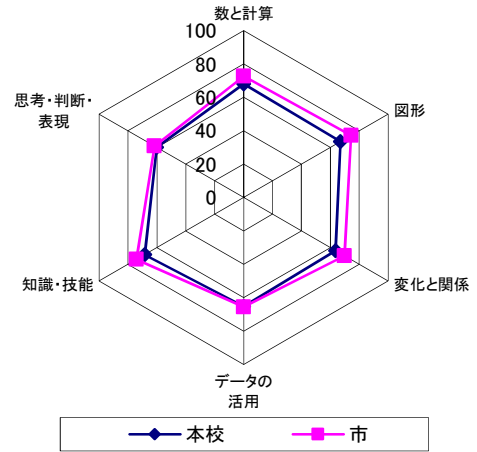
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は市の平均より5.8ポイント上回っている。</p> <p>○日本周辺の海洋名、日本の周辺の国と領土、日本の気候の様子を雨温図から読み取る設問では、ともに市の平均を上回った。</p> <p>●自然災害から命を守る取組について写真から考え、自然災害と答える設問では、市の平均を下回った。</p>	<p>・今後も日本周辺の国に関心をもたせられるよう、時事のニュースと学習内容を結びつけながら、日本の国土や世界の出来事についての関心を高めていく。</p> <p>・自然災害から命を守る取組は極めて重要である。「自然災害」という言葉のおさえを日頃の天気予報などと絡めながら行っていく。</p>
農業や水産業	<p>平均正答率は市の平均より5.8ポイント下回っている。</p> <p>○水産業における国内生産量と輸入量の移り変わりの折れ線グラフや食料生産に関する地図の読み取りでは、市の平均を下回ったものの8割以上の児童が正解していた。</p> <p>●米づくりの作業に関する資料を工程順に並べたり、耕地整理の資料から言葉を入れたりする設問では、正答率が8割を下回った。</p>	<p>・資料の相互関係や変化を読み取り、考察する力を継続して育てていくと共に、資料の変化を正確に言語化できるよう指導を継続していく。</p>
工業生産	<p>平均正答率は市の平均より12.7ポイント下回っている。</p> <p>○工業製品のイラストから工業の種類を考える設問では、市の平均を下回ったものの、9割近くの児童が正解していた。</p> <p>●電気自動車の仕組みを長文とイラストで示された資料の空欄をうめる設問では、半数以上の児童が誤答であった。</p>	<p>・社会に限らず、日頃から長文に慣れる訓練を国語科を中心に継続していく。また、資料の要点となるキーワードやイラストの中の注目すべき部分の捉え方等、社会科の時間を中心に継続して指導していく。</p>
産業と情報との関わり	<p>平均正答率は市の平均より8.9ポイント下回っている。</p> <p>○情報の正しい受け取り方について考える設問では、市の平均を下回ったものの87%以上の児童が正解していた。</p> <p>●新聞やテレビが情報を伝える際、共通していることは「事実を正確に伝えること」と答える設問では、約半数の児童が誤答であった。</p>	<p>・今後も身の回りのメディアについて関心をもたせるとともに、自分たちの身近な生活の中で情報ネットワークがどのように活用されているか話し合い、その便利さを感じられるようにする。</p>
日本の政治	<p>平均正答率は市の平均とほぼ同等である。</p> <p>○日本国憲法における天皇の地位や国会の働きについて答える設問では、市の平均よりも3～5ポイントも上回っている。</p> <p>●三審制に着目して国民の人権を守るための裁判のしくみについて考える設問では、市の平均よりも6.9ポイント下回った。</p>	<p>・子供たちが身近に感じられるよう、時事問題などを朝の会の話題にするなどして、政治への関心をさらに高めていけるようにしていく。</p>
日本の歴史	<p>平均正答率は市の平均より2.2ポイント下回っている。</p> <p>○年表の記述から平清盛についての正しい説明を選ぶ設問では、正答率が市の平均よりも6.7ポイント上回った。</p> <p>●弥生時代の人々の暮らしに着目し、米づくりが広がった理由を説明した文書の空欄に「米」と回答する設問では、約4割の児童が誤答であった。</p>	<p>・歴史に関心をもたせられるよう、資料や図書資料、映像などを活用し今後も指導を行っていく。</p> <p>・それぞれの時代に、どんな理由でどんな出来事があったのか、時代背景ごとに事件を関連づけるなどして指導を行っていく。</p>

宇都宮市立東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.0	72.6	71.6
	図形	67.0	74.4	72.0
	変化と関係	63.6	69.8	62.6
	データの活用	65.2	65.5	59.1
観点別	知識・技能	68.4	74.1	68.9
	思考・判断・表現	60.2	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

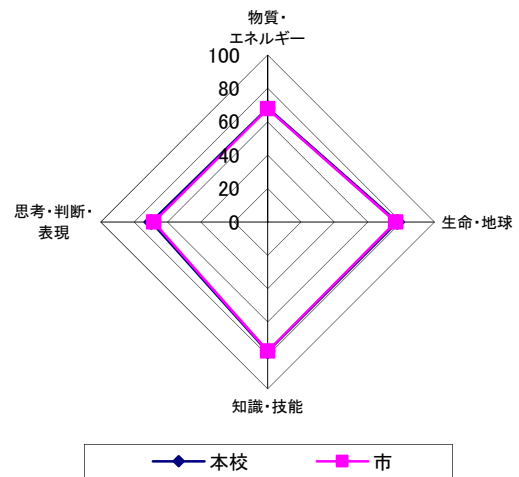
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>正答率の平均は、市の平均より下回っている。</p> <p>○図を使って分数の除法の文章問題に合った式を選ぶ設問では、市の平均正答率を6.1ポイント上回った。</p> <p>●小数・分数の計算に課題がみられ、特に通分や約分のある計算問題で誤答が多く見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小数や分数の計算を中心に、習熟度別学習やプリント学習を通して計算技能の習熟を図る。 ・文章問題の意味を理解できるよう、数直線や図などを用いて考える時間を授業の中で多く設け、立式できるよう指導を重ねていく。
図形	<p>正答率の平均は、市の平均より下回っている。</p> <p>○三角柱の展開図から見取り図の辺の長さを読み取る設問では、84.8%と高い正答率であった。</p> <p>●正八角形の中心角や一つの内角の大きさを求める設問では、36.4%と低い正答率になった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作図などの算数的活動を継続して取り入れるとともに、具体物や言葉、数、式、図などを用いて面積の求め方を考え説明する活動を授業の中で意図的に取り入れる。 ・正多角形の学習において、作図やプログラミング学習を通して正多角形の概念を理解させていく。
変化と関係	<p>正答率の平均は、市の平均より下回っている。</p> <p>○空位のある平均を求める問題の正答率は、78.8%と市の平均と同程度であった。</p> <p>○一方の速さと距離から他方の速さと距離を関連付ける設問において記述で自分の考えを表す問題では、市の平均を上回った。</p> <p>●速さを求める問題の正答率は市の平均を12.1ポイント下回り、課題が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを根拠をもとに説明できるよう重点的に指導を行ってきているが、今後も、授業の中で自分の考えを式や図、数直線などを用いながら説明したり書き表したりする書く活動を積極的に取り入れていく。
データの活用	<p>正答率の平均は、市の平均と同程度である。</p> <p>○折れ線グラフの読み取りや、もとにする量の大きさが違うとき「割合の大小」と「比べる量の大小」は一致しないことを具体的に説明する設問では市の平均を8.7ポイント上回った。</p> <p>●資料の活用に関する設問では、最頻値の理解に課題がみられた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も複数のグラフや表から読み取れることは何か見つけたり、データを関連付けて自分の言葉で表現したりする活動を授業の中で意図的に取り入れていく。

宇都宮市立東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	68.2	67.8	64.1
	生命・地球	77.8	76.7	78.3
観点別	知識・技能	77.7	77.4	78.3
	思考・判断・表現	69.7	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>正答率の平均は、市を0.4ポイント上回っている。</p> <p>○電流の働きや単元では、すべての問題において市の平均を上回り、電磁石を強くする方法を問う設問では市の平均正答率を13.6ポイント上回っている。</p> <p>●ふりこのきまりの単元では、すべて問題において市の平均を下回り、振り子の周期がどのように変わるかを説明する設問では、市の平均正答率を4.9ポイント下回っており、校内正答率が非常に低くなっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験技能等の習得を図るため、引き続き児童一人一人が実験にかかわれるような教材教具の準備を行っている。 ・知識の習得が曖昧なものにならないよう、実験の方法についての説明や結果の考察を図で表すだけでなく、言葉で補足説明を入れるなど表現をすることに力を入れ、要点をしっかりと抑えたまとめができるよう指導していく。
生命・地球	<p>正答率の平均は、市を1.1ポイント上回っている。</p> <p>○動物のからだのつくりとはたらきの単元では、すべての設問で市の正答率を上回っている。メキシコサンショウウオの耳のような部分がえらであることを推測し、はたらきについて考える設問で市の平均正答率を6.9ポイント上回った。</p> <p>●生物とかんきょうの単元においては、ポリエチレンの袋の中に息を吹き込んで実験する理由や気体検知管のメモリの読み取りなどの知識・技能を問う設問において市の平均正答率を下回っている。誤答においては、理解の曖昧さが感じられた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事象や生命に関することにおいて、学習のつながりを意識した話題を提供し、生活経験や知識の個人差を補充するとともに興味関心を高めるようにする。また、人体の仕組み等実際に観察できないものは、PCや視聴覚教材を利用していくようにする。 ・天体等、実際に観察実験等ができないものについて、これからも自作教材等の工夫を行う。 ・要点を確実な理解となるよう、友達に伝えたり、自分の言葉で表したりする活動を多く取り入れていく。